

刊行に際して

NPO法人福祉サービス経営調査会では、福祉事業経営者支援の一環として、経営者のモデルとなるような方々を紹介する試みを始めました。その最初に取り上げたのが社会福祉法人神戸婦人同公会理事長の城純一氏であります。紹介方法は、当NPO法人設立者の一人であり、初代理事長の塚口伍喜夫氏との対談を通して城純一氏の経営者像を浮かび上がらせていきました。同時に、時代背景を共にした塚口氏との関係も興味をそそられます。全体として大変意味深い内容となっております。多くの福祉経営者にぜひご一読いただきたいと切望いたしております。

NPO法人福祉サービス経営調査会

理事長 笹山 周作

対談者として

NPO法人福祉サービス経営調査会では、経営者援助の一環として、主として兵庫県内の社会福祉経営者の実像を紹介する試みを始めました。社会福祉法人の数だけ経営者がいるわけですが、その経営者は大きく二つのタイプに分けることができます。その一つは、二・三代前に創業者がいて、その創業者の理念や心意気を引き継いで現在の状況に適応させながら事業を発展させているタイプ。もう一つは、ここ十数年の間に新たに福祉事業に参入してきた経営者というタイプの二つです。

当NPO法人では、そのタイプにとられることなく、社会福祉事業経営者として社会福祉の第一線を牽引されている方の経営に対する考え方や、経営者としての自己研鑽、職員集団の導き方、地域社会との関係の構築、将来の発展方向などを、対談方式で聞き出し、それをまとめ、その中から多くの教訓を学ぶことができるようこの試みを始めました。

第一回目に取り上げたのは、社会福祉法人神戸婦人同情会理事長の城純一氏です（以下

「純一」という)。奥さんの邦子氏も同席いただきました(二〇一五年八月三日、法人本部で)。対談者は、NPO法人福祉サービズ経営調査会顧問の塚口伍喜夫です。

二〇一七年一月

塚口 伍喜夫

社会福祉を牽引する人物

城純一

目次

刊行に際して	1
対談者として	3
第1章 城純一の生い立ち、社会福祉の道に入った動機	9
第2章 伝統を生かす	17
第3章 経営困難法人への援助	25
第4章 地域政治に関わって	38
第5章 地域ボランティアとしても活躍	43
第6章 資格取得で自己の向上を	51
第7章 後続く事業者への提言	56
城ノブの業績	64
『福祉の灯／兵庫県社会事業先覚者伝』昭和46年（1971年）、兵庫県社会福祉協議会刊行より	
編集後記	80